

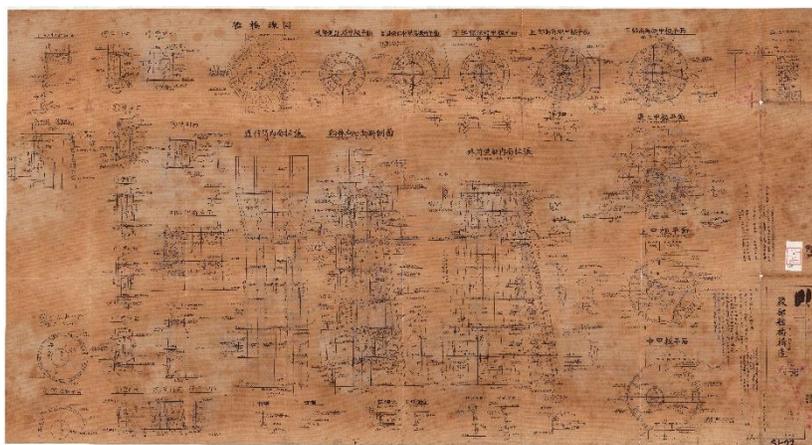
戦艦「大和」の設計図



戦艦「大和」にはたくさんの設計図がありましたが、終戦後、機密¹を守るために燃やされてしまい、ほとんど残っていません。そんな中、平成 11 (1999) 年に呉市内で発見された「大和」(新造時)の設計図は、今までくわしく分かっていなかった艦橋²部分のものが多く、謎につつまれていた「大和」を解明するための貴重な資料となりました。

原図は、絹の布地に特殊なロウをぬり、「からす口³」を使って手書きで製図^{せいず}されています。サイズは大きいもので縦約 1.5 メートル、横約 1 メートルもあります。

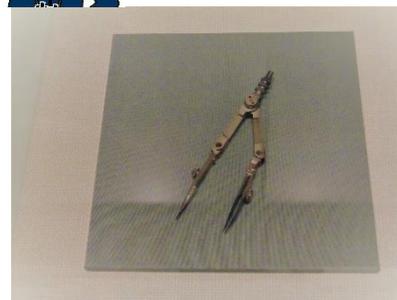
大和ミュージアムでは、近代化産業遺産・日本遺産に認定された原図の複製品^{ふくせいひん}を展示しています。



戦艦「大和」後部艦橋構造



「大和」の設計は、
2年半かけておこな
われたよ!



からす口付きコンパス

¹ 政治・軍事上の最も大切な秘密のことから。

² 艦の操縦^{そうじゆう}をしたり、目標までの距離^{きょり}をはかったり、戦闘^{せんとう}の時に乗組員への命令を出したりする、「頭脳」に当たる場所のこと。

³ 製図器具のひとつ。鳥のくちばしに似た部分^{すみ}に墨をふくませ、線をひきます。